

Citation: Galaal K, Deane K, Sangal S, Lopes AD. Interventions for reducing anxiety in women undergoing colposcopy. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2007, Issue 3. Art. No.: CD006013. DOI: 10.1002/14651858.CD006013.pub2.

CRG名: Gynaecological Cancer

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 19 May 2007

Clib issue No.; N/U: 2009 issue 2, -

背景: 子宮頸癌が起こる前に、子宮頸部の細胞が異常になる。頸管塗抹標本の異常の後に、コルポスコピーが行われる。コルポスコピーとは、双眼顕微鏡を用いて子宮頸部を観察する方法である。女性は、子宮頸部スクリーニングのすべての段階でかなりの不安と拒絶的な情緒反応を経験する。コルポスコピー前および施行中のかなりの不安は、この処置を施行している時に疼痛や不快感、さらには追跡不能率が高くなるような有害な結果を伴うとされている。本レビューでは、コルポスコピー検査時の不安程度を軽減するためにデザインされた介入を評価する。

目的: コルポスコピー検査時の女性の不安を軽減することを目的とした様々な介入の有効性を比較する。

検索戦略: Cochrane Central Register of Controlled Trials(CENTRAL)、(コクラン・ライブラリ2006年第1号)、MEDLINE(1951年~2006年)、EMBASE(1980年~2006年)、CINAHL(1982年~2006年)、Psych Lit and CancerLit、NHMRC Clinical Trials Register、UKCCCR Register of Cancer Trials、Meta-Register、Meta-Register およびPhysician Data Query Protocols。

選択基準: コルポスコピー検査時の不安を軽減させるための介入に関するランダム化比較試験および準ランダム化比較試験。

データ収集と分析: 1名のレビューアが、引用および参考文献リストを検索した。選択基準に適合していると考えられる研究を別の3名のレビューアが独自に取得し、評価した。含めた研究の方法論の質をコクラン共同計画 Back Review Groupの方法論の質の基準(van Tulder 2003)を用いて評価した。

主な結果: 11件の試験を含めた。これらの試験では不安を軽減するために様々な介入が使用されていた。これらの試験は、以下に示す異なる種類の介入後に1441例の女性の不安程度を検討していた。

情報パンフレット(不安軽減を伴わないことが実証された)。

カウンセリング:コルポスコピー前のカウンセリングは不安を軽減させなかった。

情報パンフレットおよび情報ビデオやコルポスコピー前のカウンセリングは不安の程度を軽減しなかった。

コルポスコピー時の音楽:本介入は不安の程度を軽減させた($p < 0.002$)。

ビデオを用いたコルポスコピーは不安の程度を軽減させ、その不安の軽減は有意であった($p < 0.0002$)。

グラフを用いた情報および口頭での情報および情報ビデオと、要求された場合に限った情報提供との比較:介入群において不安程度に有意な軽減はみられなかった。

情報パンフレットおよび情報ビデオと、情報パンフレットのみとの比較:コントロール群と比較して、介入群において不安程度が軽減した($p < 0.00001$)。

レビューアの結論: コルポスコピー時に音楽をかける、コルポスコピー前に情報ビデオを見せる、さらには手技の最中にビデオを用いてコルポスコピーを見ることにより、不安は軽減すると考えられる。情報パンフレットは不安の程度を軽減させなかったが、知識量を増やすことから、コルポスコピーの手技について臨床現場での同意を取得する上で有用である。

(監訳 吉田 雅博)

ご注意:この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。